

職員による自己評価

保護者による評価

A 業務改善

- ・利用者からの要望は実施可能か、どのような工夫があれば改善できるかなど会議で話し合いをしました。
- ・職員の共有ノートを利用し、日々の業務で気になる点など記入するようにしました。

B 適切な支援の提供

- ・活動前にねらいを保護者に伝えました。
- ・療育中の職員の動きが滞ることがないように、支援開始前に確認しホワイトボードにも記入しました。

C 関係機関との連携

- ・併行通園先の幼稚園・保育所とは必要に応じて訪問や電話などで連携を取りました。
- ・保護者と併行通園先からの希望をもとに担当保育士に支援場面を見学していただき、情報の共有等を行いました。

D 保護者への説明責任等

- ・支援開始前に面談を行い、支援の目的や今後の流れなどを説明しました。
- ・様々な保護者向け勉強会を行いました。
- ・保護者から相談があった場合は支援後の面談や電話で対応を行いました。

E 非常時等の対応

- ・支援開始前の面談で感染症への取り組み、避難経路の説明を行いました。
- ・避難時のヘルメットは見える場所に設置しました。

A 適切な支援の提供

- ・個別支援計画に沿った支援をしているは 85.2%、プログラムが固定化しない工夫をしているは 88.9%の回答をいただきました。
- ・「週 1 回の通所だったため支援計画を確認したり、十分な面談をしたりする時間はありませんでしたが有意義な時間はたくさんあった。」「活動によって教室が変わり、メリハリがつき子どもの集中を保つことができ楽しく参加できた。」というご意見をいただきました。

B 保護者への説明等

- ・「困り事を相談させていただくとすぐに的確な回答をいただき問題を共有していただけて良かった。」「毎回声を掛けてもらい悩みや気になることを気軽に話せるのがとてもありがたい。」「活動内容を明確に伝えてくれるので状況が理解しやすい。」など説明に対してはよい評価をいただきました。反面、保護者懇談会やクラスだよりでの発信が少ないなどのご意見もいただいています。

C 非常時等の対応

- ・緊急時のマニュアル等については 96.3%が周知、説明されているとの回答をいただいています。必要な訓練が行われているのかわからないという意見もありました。

D 満足度

- ・「毎回、通うのを楽しみにしているので連れて行きやすい。」「毎週、行かないの？と聞いてくれました。」など満足度は 92.6%という評価をいただきました。



事業所内での分析

【共通点】

- ・お子さんが毎回、楽しんで参加できるプログラムの提供ができました。
- ・保護者の方にも安心して参加していただけるよう災害対策、感染症対策を行いました。また、個別に声をかけることを心掛けるなど、保護者が相談しやすい環境を提供し、面談や電話対応などできるだけ速やかに対応するようにしました。
- ・支援前にねらいを保護者に伝えたことで理解しやすいという回答をいただきました。
- ・避難ルートは支援開始前の面談で説明したので、ほとんどの方に理解していただきました。

【相違点】

- ・災害の発生に備えて誰にでもわかりやすい場所にヘルメットを設置しましたが、利用者の方には認知していただけませんでした。
- ・クール制で利用回数が限られているために保護者勉強会の比重が大きくなり、保護者懇談会や保護者同士の交流の場を作ることが難しいと事業所としても感じています。今回のアンケートで保護者同士の交流の時間を多くの方がご希望されていることがわかりました。

分析・検討してみても…

事業所の強み

【支援内容】

お子さんが楽しんで活動に参加できるよう工夫し、安心して通っていただける支援を提供しています。活動を通して着席、順番、返事、注目、手先の使い方など日常生活で必要となる様々な経験を積んでいただけるようになっています。

【保護者勉強会】

療育センター内に事業所があるため、ソーシャルワーカー、心理士、言語聴覚士などの多職種の講師による様々な保護者勉強会を行っています。

【関係機関との連携】

併行通園先の幼稚園・保育所とは必要に応じて訪問や電話での情報交換など連携を行っています。また、支援の見学などのご希望にも対応しております。

事業所の改善点

【クラス開催の回数について】

現在、利用を希望されるお子さんが多いため、2, 3, 4歳児は3か月間（週1回、全11回）の支援、5歳児は1年間（月2回、全約20回）の支援を実施しています。そのため、2, 3, 4歳児の保護者からはもう少し通いたかったなどのご意見も伺っています。回数、期間などは今後、検討していきたいと思っております。

【保護者懇談会について】

保護者懇談会や保護者同士の交流の場を支援時間内に設けられるようプログラムの見直しを行います。

【情報提供の工夫】

わかりやすい説明、見やすい書類、掲示物の工夫など情報発信の見直しを行います。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

利用者の方にはお忙しい中、アンケートにお答えいただきとても感謝しております。支援内容や職員への温かいお言葉を多数いただき、とても励みになりました。

ご指摘いただいた保護者懇談会や保護者同士の交流については見直しをしていきます。アンケートをもとに今後もより一層、質の高い支援が提供できるよう職員一同、取り組んでまいります。これからもご利用していただくお子さん、保護者が楽しく・安心して通える児童発達支援事業所を運営してまいります。